

産業現場において従業員の健康保持・増進に精力的に取り組む方々の産業保健活動をご紹介します。

今回お話を伺うのは

- 彌富美奈子^{いやどみ}さん（株式会社SUMCO九州事業所 健康管理センター 統括産業医）
- 升田良恵さん（株式会社平和堂 教育人事部 健康管理室 保健師）
- 福原真司さん（株式会社ヒカリ 総務部長 衛生管理者）

働く人の声に耳を傾け、 よりよい健康管理システムの 構築を目指す

●INTERVIEW●



株式会社SUMCO九州事業所 健康管理センター 統括産業医

いやどみ 彌富 美奈子 さん

佐賀県の西部に位置する伊万里市は、300有余年の歴史を誇る伊万里焼きの産地としてその名を知られている。伊万里駅から車で15分、のどかな田園風景を走り抜けると株式会社SUMCO九州事業所（以下、SUMCO）の社屋が見えてくる。SUMCOは半導体製品の素材として欠かせないシリコンウェーハの製造・販売を中心に事業を展開しているが、その製造拠点の一つが九州事業所（伊万里）である。

平成10年に九州事業所の健康管理センターに専属産業医として着任以来15年、3工場を合わせると2,600名を超える従業員の健康維持に努めてきた彌富美奈子さんの多彩な活動を紹介する。

予防医学の大切さに気づき産業医の道へ

「私はもともと皮膚科が専門です。大学病院の外来で接触皮膚炎の患者さんを診療する中で、職場環境との関係性が見えてくるようになりました。職場でほんの少しの配慮があれば職業性皮膚炎は防ぐことが可能です。経験を通じて、予防医学の大切さを痛感しました。また、職業性皮膚疾患に見識の高かった大学の恩師の研究を手伝ううちに、職場環境の改善

ということを考えるようになり、大学院で産業医学を学びました。産業医資格を取得した年に声をかけて頂き、ここに着任しました。産業医としては遅い出発です」と彌富さん。

九州事業所には3つの工場があり、健康管理部門の陣容は、長浜工場が彌富さんと看護師が1名、久原工場と佐賀工場に保健師が1名ずついる。彌富さんは各工場を月に1度巡回、スタッフと綿密な連携を取り合う。

「健康管理センターではすでに、さまざまな活動を展開していましたから、私はそれまで個別にやっていたことをオーガナイズして体系的な管理のシステムに取り組んだだけです。メンタルヘルスに関しては、相談窓口の整備や復職者の支援が主な活動だったものを、平成14年のOSHMS導入をきっかけに、計画的な職場環境改善に力を入れました」。

その取り組みは2年前の本誌（第61号）で詳細に報告された。今回は細部に触れないが、職業性ストレスという視点から職場環境を評価し、改善する活動の推進によって、事業所全体の総合健康リスクは毎年減少を続けている。

アルコール対策に独自の工夫を

予防医学の世界は常に新たな課題が待っている。最近、彌富さんたちは2つの課題に取り組んでおり、その一つがアルコール対策である。九州という土地柄、また、男性従業員が9割を占める事業所の飲酒率は当然高い。

「いきなりアルコールを持ち出すと、従業員のみなさんは抵抗がありますから、初年度は特定保健指導という形でスタートしました。肥前精神医療センターの『HAPPYプログラム』を導入し、その後は3カ年計画で全職場、全従業員を対象に進めています。各職場に保健師が出向き、DVDを鑑賞してもらいながらアルコール健康教室を開催し、各自の飲酒の行動目標を立ててもらいます。メンタルヘルス対策でヒントをもらい、アルコールのアクションチェックシートも作成しました。職場単位で飲酒と向き合う中で、職場の飲み会の在り方などにも少しずつ変化が見られ、飲酒量も改善されつつあります」と彌富さんはにっこり。

すでに導入しているAUDIT（アルコール問題簡易検査）で高い得点の従業員は個別に集合教育を受けることになるが、健康に対する意識の共有によって、職場の仲間が配慮し合う雰囲気も生まれてきた。また、これまで開発した生活記録表の中には、その日の飲酒量によって、節約した金額もわかるようなシステムもあり、とにかく楽しみながら自分の健康に向き合えるよう、彌富さんの挑戦は尽きない。

がん検診の受診率向上のために

もう一つ、新たに取り組んでいることに『がん検診』がある。昨年SUMCOが『がん検診企業アクション』のパートナー企業になったことがきっかけとなった。パートナー企業には『がん検診のススメ』という冊子が配布されるが、これを全従業員に配り、意識の高揚を図っている。

「検診の項目を増やすのは困難という状況の中で、いかにがん検診の受診率を高めるか、みんなで知恵を出し合いました。まず健保事業のがん検診を全従業員に周知して、健保と協力しながら受診率向上を目指すと同時に、地域のがん検診事業を積極的に活用しよう

ということになりました。佐賀県はここ数年肝がんの死亡率が全国でトップということもあって、さまざまな事業を展開しています。例えば県内在住の希望者を対象に、肝炎ウィルスの職域巡回検診を無料で実施しており、さっそく当社の健診時期に合わせて実施しました。平成18年から雇い入れ時に肝炎検診を実施してきましたが、この職域巡回検診のおかげで、平成18年以前入社者の86.2%の従業員が受診してくれました」

さらに、がん検診推進事業の一環である『5年ごとの無料クーポン券』を周知徹底した。従業員がそれぞれの市町村の関連ホームページで検索できるように広報のページも作成している。せっかくの無料クーポン券を大いに活用しようと、保健師がDVDを使って周知に努めている。「工夫することには時間を惜しみません」と彌富さんは屈託がない。

チームワークが宝

製造拠点を支えるため、今は3交替のシフトが引かれている。ときには2交替になることもあり、睡眠に悩む従業員も増えている。また、半導体の製造は化学物質を取り扱うため、化学物質取扱い教育など、安全・防災・衛生が一丸となった活動も求められる。

さらに時代の厳しさは会社を直撃し、最近では希望退職を募るなどの不安定要素が広がる中でメンタルヘルス不調者も若干増加、メンタルヘルス対策は一層重要な課題となっている。

「産業医はやるべきことがたくさんあります。集団が相手ですから、時間もかかりますが、健康の大切さを集団にどうアプローチしていくかが大きな課題です。安全・防災の担当者と産業衛生のスタッフが協力し合い、働く人の声にしっかり耳を傾け、丁寧に対応していきます。誰もが健康で長く働ける職場風土を、チームワークで築いていきたい」。彌富さんの言葉に力がこもった。

会社概要

株式会社SUMCO

事業内容：半導体用シリコンウェーハの製造・販売

設立：平成11年

従業員：2,021名（伊万里、長浜、久原）

所在地：佐賀県伊万里市

「健康管理室があるから安心」 そう思われる頼りになる存在へ

●INTERVIEW●

株式会社平和堂 教育人事部 健康管理室 保健師

升田良恵さん



平和堂は、本部のある滋賀県を中心として、近畿・北陸・東海の2府7県と中国湖南省に大型ショッピングセンターや小型スーパーマーケットなど約140店舗を展開し、毎日の生活に必要な食料品や衣料品、住居関連品などを販売している地域密着型の企業。

升田さんの働く健康管理室は2002年に創設され、社員の健康管理と安全衛生に関する分析や指導、予防活動に努めている。通常は産業医と看護職(3人)、事務担当の計5人体制で、約21,000人の社員の健康を見守り、サポートしている。

定期健康診断(対象者約9,600人)の他、日常的に行っている個別相談も大きな役割の1つで、相談は社員から電話で寄せられることが多く、必要に応じて面談を行っている。だいたい週10件ほどの相談に対応しているという。他にも、雇用時健診で麻疹・風疹の抗体検査を行ったり、インフルエンザ予防接種を各店舗で実施したり、一次救急救命処置講習会の開催を呼びかけて実施してもらったりと、取り組みは多様である。

相手の気持ちを考えて伝える

升田さんは、看護師として臨床現場を5年ほど経験する中で『予防の大切さ』に関心を持ち、大学に編入して再び勉強に邁進。その中で産業保健に興味を抱き、人員を募集していた平和堂の健康管理室で詳しい話を聞くうちに、「さらに関心が高まりました。平和堂はスーパーマーケットですから、ここで働く人が元気であることが地域の皆様の元気につながるとも思い、やりが

いを感じて入社しました」と昨年4月の入社当時に振り返る。その後、あっという間に1年が過ぎたという。

定期健康診断は毎年1月～3月半ば、各店の担当者に協力してもらいながら各店で実施する。店舗ごとに選任している産業医や委託先の協力も得て行うため、さまざまな連絡調整がまず大事であるという。

受診率はほぼ100%で、診断の結果、早急に医療機関受診が必要な社員には『緊急連絡』として伝え、医療機関を紹介。治療するなどして、安全に働けることが証明されるまで統括産業医の指示の下、就業制限を行うこともある。

また、血圧や血糖値などに問題が見られる社員にも各店舗の産業医の指導を受けてもらい、必要に応じて委託先の保健師の健康指導を受けてもらう。こうした受診をしない人には電話や手紙、あるいは上司を通じて受診を勧奨するが、どのように話したら受診する気持ちになるか、相手の立場になって言葉を考えるものの、まだ慣れないので悩みながらであるという。

店舗でのインフルエンザ予防接種や一次救急救命処置講習会開催の呼びかけも同様で、「全店舗に取組みを広めるには、各店舗の協力をどう得るか。そこに知恵を絞っています」と升田さん。

昨年は現場を知ること兼ねて、委託先の保健師とともに店舗に出向いて健康相談も行った。熱心に業務に励む升田さんを見て健康管理室の先輩たちは、「誠実で勉強熱心」、「吸収が早い」と高く評価し、見守っている。

升田さんは「体調を崩して相談に来る人と健康管理室のやり取りを見ていると、ここは社員の様子を的確に会社に伝え、理解を得て、その社員の健康を支援する大事な部署なのだとあらためて感じています。今後も健康管理室があるから安心と思われるように、さらに学んでいきたい」と笑顔で抱負を述べた。

会社概要

株式会社平和堂

事業内容：食料品・衣料品・住居関連品等の総合小売業

設立：昭和32年

従業員：20,764名(パート、アルバイト含む)(平成25年4月現在)

所在地：滋賀県彦根市(本社)

楽しみも苦しみもみんなでき 職場づくりを目指して

●INTERVIEW●

株式会社ヒカリ 総務部長 衛生管理者 福原真司さん



愛媛県東温市に本社を構える株式会社ヒカリは、オートメーション機械を受注生産する会社で、タイや中国にも現地法人を持ち、電機、自動車をはじめとする大手メーカーの生産設備等を支えている。

総務部長でもある福原真司さんは、入社当初は現場で納品を担当していたが、昭和63年に総務部へ異動し、直後に衛生管理者の資格を取得した。以降、総務の担当業務として安全衛生管理にも取り組みながら、産業カウンセラーの資格も取り、同社のメンタルヘルス推進担当者としても活躍している。

新体制確立時に安全衛生管理を見直し

福原さんが、衛生管理者としての活動を進める中でターニングポイントとなったのは、本社の移転や社長の交代に伴い、会社の組織全体の見直しが行われた平成6～8年のことであった。「本社工場の新築移転の際、快適な職場環境の整備を工場建設に反映させ、快適職場推進計画認定を県内で最初に取得しました。また、長らく改正していなかった安全衛生に関する規程をすべて作り直しました。これを機に社内の安全衛生活動が活発化しました」。

さらに同社では、富田耕治社長自らが積極的にメンタルヘルス対策に取り組む姿勢を示していることから、平成13年に『メンタルヘルス指針推進モデル事業場』にも選定され、福原さんが中心となり、外部カウンセラーの廣瀬一郎さんとともに10年以上、メンタルヘルス対策に取り組んでいる。その様子は『こころの耳』（<http://kokoro.mhlw.go.jp/>）にも紹介されているので、ぜひ参照していただきたい。

また、平成12年からは健康診断を年2回の実施とし、がん検診も年齢に関係なく希望者全員が受診できる体制を整えた。「社員の約8割は技術職です。顧

客のニーズに沿って短納期で仕上げる設備も多く、長時間勤務者が多いことは否めません。ご家族も心配されますので、半年に一度健康状態をチェックすることで、不安要素を少しでも取り除けるようにしています」と、社員の健康管理にも余念がない。

新入社員にも現実を伝え、考えてもらう

現在は、先述した『こころの耳』で紹介されている取組みに加え、若年者層への教育にも注力している。「毎年、新入社員教育にメンタルヘルス教育を取り入れています。たくさんある中の1科目です。新入社員にとっては、すぐにピンと来ないのではと思います。今年は、過去に社内でメンタルヘルス不調者が発生した事例を取り上げ、解説しました。多少ショッキングな内容ではありますが、『残念ながら、この会社もメンタルヘルス不調者はゼロではない』という事実を伝え、身近な問題であると感じてもらいました」と教育面での工夫を教えてください。

最後に福原さんは、「今までは、一人ひとりに合わせた職場復帰支援をしてきましたが、順序や判断のポイントなど共通している部分もありますから、今後は、その辺りを少しシステム化していきたいと考えています。メンタルヘルス推進担当者として、総務という立場を持っているので、自分の中でせめぎ合ってしまう部分はありますが、楽しみも苦しみも共有できる職場をつくっていききたいという想いは変わりません」と、今後の抱負を語った。

会社概要

株式会社ヒカリ
事業内容：合理化省力化自動機械の設計・製造・販売・メンテナンス等
設 立：昭和36年
従 業 員：319人
所 在 地：愛媛県東温市